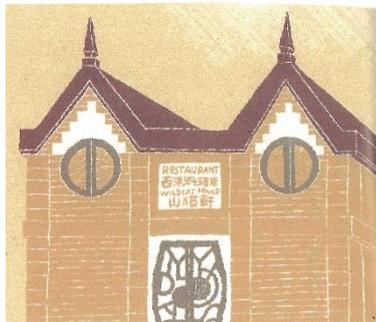




指導員訪問⑤ 国語科 5年「物語りのおもしろさを解説しよう」 鈴木 奈奈 教諭



読書や話し合い活動が好きな鈴木学級。登場人物の気持ちや想像したり、物語全体の構成や題名の意味を考えたりする子供たち。そこで、

物語の構成や表現の工夫だけでなく、作者の思いや

時代背景など様々な視点から物語を読むことのおもしろさに気づいて

ほしいと願い、本単元を設定しました。本時では、宮沢賢治が物語を通して伝えたかったことを、叙述や作者の生き方、考え方とつなげて読みとる姿があったかどうかです。

初めに、最後の1文を朗読。紳士の顔を実際に紙屑のようにくしゃくしゃ



にして見せて提示。「宮沢賢治はなぜ顔を戻してあげなかったのか」と問いかけました。自己中心、恥、自然、反省など4つの視点で板書。「命」に触れたところでT4●で立ち止まり、叙述へとつなげました。

協議会では、子供にゆだねる、つぶやきを拾う、教師の出を絞る、板書の視点など自由に



グループで話し合いを。指導員から、子供主体で賢治に迫るために①具体物の効果、②発展的な扱い方(ジャンプの課題)、③板書で対立軸から叙述に迫る、④チーム学習での教師支援等、子供の発言をもとに分析され、丁寧に教えていただきました。

私が10年以上前に5年生で扱った時と違った感情で読みました。それは「共存」です。「忘れさせないため」と厳しいC18がC1らの発言を受けて「助けるため」と変容にどきどきしました。そして、C1が「いいことをすると自分に返ってくる」と振り返りを。賢治の他作品に多く出会い、大人になって再読書を願います。



<授業記録より一部抜粋、編集>

- C1: 宮沢賢治は、世界全体が幸福にならなうちは個人の幸福はあり得ない、という思いがあるから、二人の紳士は自分勝手でお金とか命を大切にしない人がいるから、個人の幸福はあり得ないし、そして二人の紳士は**自己中心的**で、みんなが言ったように**命**を大切にしないから、大切にできないから、個人が幸福になれたいってことを教えたいから紳士の顔をくしゃくしゃにした。
- T2: なるほどね。**命**を大切にしない？二人の紳士って？
- C3: してない。(つぶやき)
- T4●: 何で？何があった？
- C5: 犬が死んだとき、損害があった(多数)
- T6: どこに書いてあった？
- C7: 最初のページ。P127.L4 ぐらい(多数)
- T8: (読み聞かせる)自分が大切にしていた犬が死んじゃった時、「損害だ」って言う？
- C9: 言わない(多数)
- T10: どう思う？
- <略>
- C18: C1に似ていて、犬が死んだときに損害って言うてるし、性格からすると餌とかなかなかあげてなさそうだから、少し格好つけたりしてすぐに死んじゃって損害と言うんだったら、その**賢治が生きた時代の貧しい人**とかに、それが秘密の場合は、あげれば、あげたらその人が救われたりするかもしれないから、だから、くしゃくしゃな顔にして、その顔で格好つけてもいいなとかならないから、そのものを売ったり買わないようにして、**貧しい人を助けるために**・・・(以下略)